

## 近代国家のさきがけ 薩摩の旅(3/3)

——現地で聞いた話いろいろ——

9/20/2016

北村社会福祉士事務所

代表 北村弘之

「薩摩の旅」の紀行文三回目です。

今回、9月中旬に薩摩を旅しました。ボランティアガイドや定期観光バスガイド、そして陽気な地元の人と、いろいろな話を聞いたりすることができた3日間でした。その中からいくつかのエピソードを取り上げてみました。鹿児島県の人口は約170万人、平成の合併を経て鹿児島市内はそのうちの60万人が暮らしているそうです。また、南北に長くその距離は約2400kmで、大小約600の島々で構成されているようです。ちなみに、温泉の数は九州では大分県に次いで2番とのことでした。

### ◆噴煙がなかった桜島

バスガイド曰く、鹿児島市民は出勤時に桜島を見て、「山の状態はどうかなあ」として、帰り際にも「山はどうかなあ」と見るようです。私たちも、ホテル(城山観光)で起きた時も同様でしたが、まるで富士山を観るのと同じ気持ちなのでしょう。旅の際には噴煙は見えませんでした。一昨年は何と年間800回にも及んだようです。噴火に備えて、小学生はオレンジ色の帽子を被り登下校していました。また、道の至る所には黄色の「克灰袋」が置いてあり、ゴミ収集ならぬ「火山灰収集」があるとのことでした。ご当地ならではのものです。



今回、桜島一周はバスで遊覧しましたが、周囲55kmもあり非常に大きいものでした。とりわけ、市内から見る桜島には雄大さを感じました。桜島と鹿児島港間は24時間フェリーが行き来し島民5千人の通勤・通学になくはならない存在のようです。

また、仙巖園のある磯地区から桜島迄の錦江湾では、市内の松原小学校4,5年生による約4kmの遠泳を毎年しているとのことでした。すでに50年ほどの歴史があるようです。



大正3年の大噴火で埋もれた鳥居(桜島)

### ◆山形屋デパートは三越

鹿児島の繁華街「天文館」にある老舗デパート「山形屋」。名前のとおり、山形県出身の商売人が、この地に店を構えたそうで、その起源は1772年。約250年前です。道路からみた建物の風情も何とも言いえない歴史を感じました。バスガイドの説明では、鹿児島県内の人々の贈答品は山形屋のものが必須で、東京における三越のような存在のようです。

### ◆番外国道58号線

西郷隆盛像がある鹿児島市中央公民館前にきたとき、ボランティアのガイドが「ここは国道58号線の起点です。この道路はどこに行くとお思いますか?」との質問。この先は、鹿児島港なので...と思っていたら、「実は国道58号線は、種が島、奄美大島、沖縄までにつながっている」との話。まさに海上国道なのです。鹿児島市内では1kmも満たない距離です。国道政策として、2桁の国道は57号線で終わっていたの

国道58号線の起点  
(鹿児島市内)



ですが、1976年の沖縄返還を機会に、「本土とつながる道」として、国道58号線が策定されたとのこと。おもしろいエピソードです。

◆前割でいただく焼酎

鹿児島の料理は、さつま揚げ、さつま汁、酒ずし、きびなご、とんこつのある薩摩料理、そして黒毛和牛に黒豚、そして地鶏と豊富です。鶏のスープでいただく鶏飯は安くて早く食べられるので昼食にお代りしました。しかし何と言っても、天文館の「熊襲亭」でいただいた揚げたてのさつま揚げは格別でした。その際に、「前割」と称する焼酎をいただきました。一般的に焼酎をお湯で割る際には、焼酎とお湯を自分で好みに合わせていただきますが、前割は、予め焼酎と水をコップ等で割ってから、「黒ヂョカ」という急須のような大きな容器に入れて火を通してかにかけていただくものなのです。まろやか焼酎の味でした。



急須のような黒ヂョカ

ちなみに、天文館は今では繁華街、飲食店の並ぶ街ですが、文字の通り江戸時代に天文台があったところです。

◆特攻隊 知覧基地

最終日、知覧に行きました。第二次大戦では、沖縄方面に進行してきた米軍艦隊に飛行機に弾薬を積んで体当たりした出発地点であり、悲劇の舞台でもあります。当日も多くの修学旅行生が見学に来て説明をきいていました。当時の広大なグラウンドであった滑走路は施設や住宅地などになっており、その北側に「知覧特攻平和会館」が開設されていました。知覧基地からは、20歳前後の若い隊員1,036名が戦闘機に乗り、戦死したとのことでした。我々はこのような歴史の上に生存しているのです。平和のありがたさ、命の尊さを感じました。

知覧は、鹿児島の南に位置しており、鉄道(当時)等の交通の便がよく、また風向きと地形(盆地)が適していたために開設されたようです。当時の鉄道はなく、鹿児島市内からは鉄道とバスまたはタクシーですので交通の便は決してよいとは言えません。

知覧 特攻基地跡



ガイドの日章旗の説明

◆「日の丸」の起源は薩摩藩

ボランティアガイドによると、薩摩藩主島津斉彬が1853年に幕府に大型船・蒸気船建造申請を行ったときに、日本船の総印として、白い帆に太陽を象徴した、白地に朱色の日の丸の使用を求め、日の丸を日本全体の総印とするように進言したようです。これにより幕府もその必要を認めて、1854年に日の丸が日本全体の総印となったようです。当時日の丸の朱色を出すことは難しかったのですが、染料は九州筑前で見つかったようです。それから日の丸は貿易の際、外国に対して日本の標識として必要不可欠なものとなったようです。

以上